

8. 河道特性

8-1 河道特性

嘉瀬川は、その源を佐賀県佐賀市三瀬村の脊振山に発し、山間部を流下し佐賀平野を貫流して有明海に注ぐ流域面積 368km²、幹川流路延長 57km の一級河川である。

① 上流部（源流～官人橋）

上流部の源流から北山ダム地点までは、川幅が狭く急勾配であり、高水敷はほとんど発達せず、溪流状の支川が数多く合流している。河床は玉石からなり、河床勾配は約 1/50 程度と急である。

また、北山ダムから官人橋地点は河岸段丘が良く発達し、河道は大きく屈曲しながら流れ、瀬・淵が交互に形成されている。河川敷幅はある程度広いが、高水敷は発達せず、砂礫の河原が多く出現する。河床は奇石や玉石、砂礫等からなり河床勾配は約 1/120 程度である。

② 中流部（官人橋地点～嘉瀬川大堰）

中流部は広大な佐賀平野を緩やかに流下している。河川は高水敷が良く発達しており、河床は砂礫や砂利等からなり、河床勾配は約 1/670～1/1,250 と幅があり平均で見ると約 1/900 で有明海に流入する河川のうちでは比較的急である。

嘉瀬川本川から分派している多布施川は佐賀市の上水及び浄化用水に使用されており、その流れは網目を縫うように折れ曲がっている。河床はシルト質が多く、河床勾配は約 1/2,000 と緩やかである。



図 8-1-1 嘉瀬川の河川区分図

③ 下流部（嘉瀬川大堰～河口）

下流部の有明海特有のガタ土で覆われており広大な干潟とヨシ原が広がる。河床がガタ土と呼ばれる粒子の細かい粘土であり、河床勾配は 1/5,000 と緩やかである。

8-2 河道の安定性

嘉瀬川の直轄管理区間（0k000～16k600）における平均河床高の縦断変化図を示すと下記に示すとおりとなる。

過去において大井手堰の流失，嘉瀬川大堰の建設及び砂利採取により河床は低下傾向であったが，近年において砂利採取の中止等により河床は概ね安定傾向を示している。

また，嘉瀬川の直轄管理区間の特徴として嘉瀬川大堰や川上頭首工と言った横断工作物（取水堰）の湛水面が直轄管理区間（感潮域を除く）に対し約52%が湛水面である。

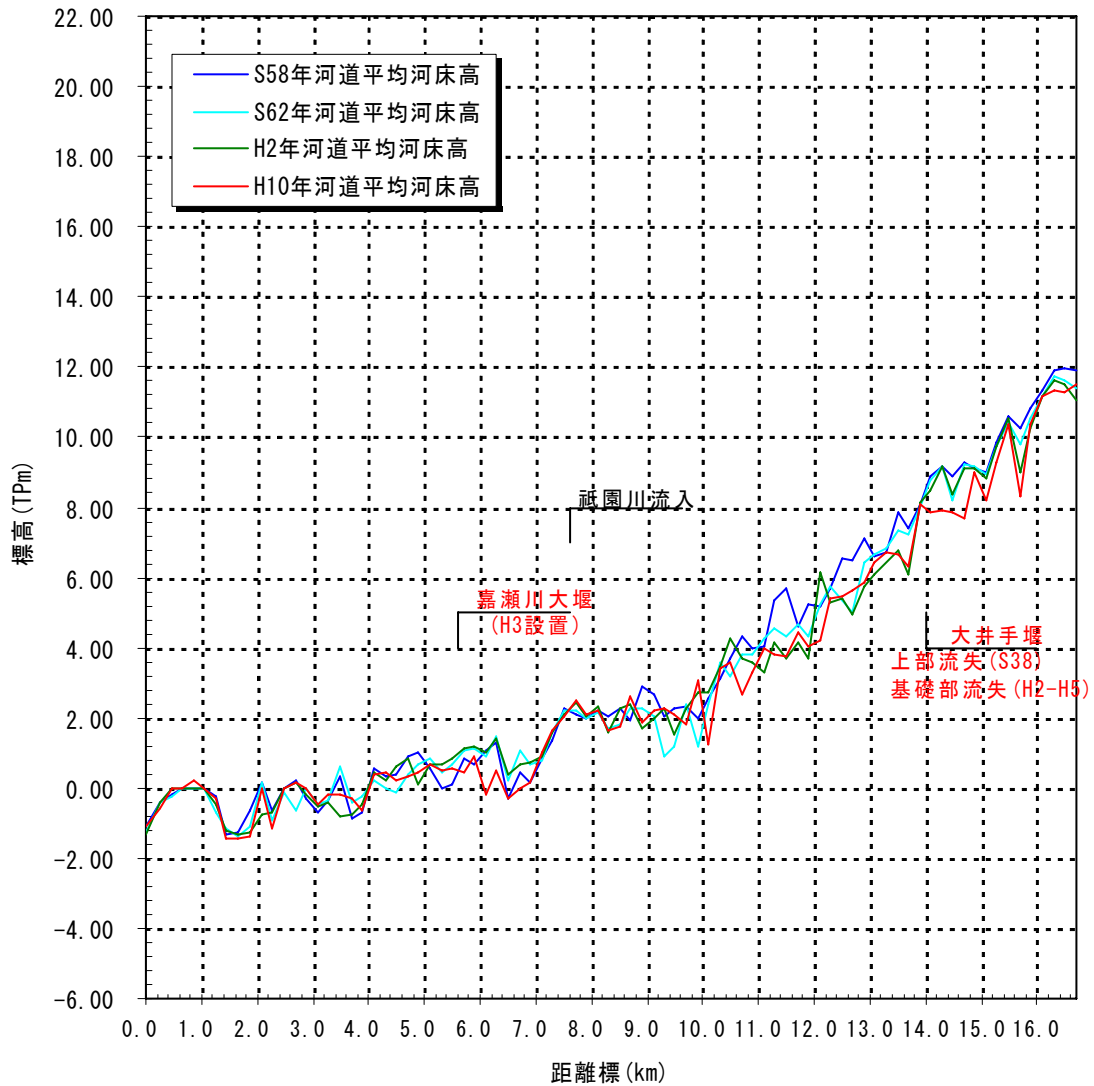


図 8-2-1 嘉瀬川 平均河床高の経年変化図